

【参加者】西澤、藤原、大竹、村瀬、川邊、隈部、村松、綿貫、中島、茨木、西尾、埜村、中川、増渕

1 部内授業の報告

須山先生より

- ・意欲的にたくさんの KYD を考えることができていた。最も多い児童は、KYD を 4 5 枚作っていた。ゲーム形式で行ったところ、KYD の枚数が多く処理が大変であった。
- ・見ていた先生よりゲーム形式ではなく、場面を見て KYD を考える形でも良い、けがの起こり方を「人の行動」「環境」「心の状態や体の調子」に無理に分ける必要はないというご意見があった。
- ・めあてを書かせる時間を意図的に設け、書くことができていた。

村瀬先生より

- ・校庭のけがが最も多いことを伝え、校庭は何をする場所かを考えさせた。次に教室の写真を提示し、教室はどのような場所であるかを確認した。本来教室は危険な場所ではないが、なぜ危険なのか、ゆさぶりをかける問いをした。ゆさぶりをかけたことで学習課題につながった。次に通学路や地域で危険がある場所を予測し、最後に自分の普段の行動を考えさせる発問をした。
- ・児童のワークシートから、自分の行動を振り返りながら今後どうしたいかが出されていた。
- ・これまでと違って学習課題から授業を検討したことは成果の一つとなる。
- ・授業外に写真を撮ったことや柔軟な授業過程とは何か、実践できているかどうか課題となった。

2 部内授業を参観して

- ・川邊先生：須山先生の準備がすばらしかった。
知識習得から知識活用という型にとらわれない授業ができた。
- ・西澤先生：新しい取り組みの KYD カードがとても有効で活用できていた。
須山先生が一人で授業しており、担任一人、養護一人でもできる授業を提案できる。
- ・藤原先生：子供たちが意欲的に取り組んでいた。第二時で何をするのか児童が把握できていたので、「第一時でこのような指導をしたから第二時で意欲的にできた」ということを提案できる。どのような学習課題を児童が持つかによって、柔軟な学習過程につながる。学習過程の持たせ方は、今後また整理をして授業実践するとよい。

須山先生より⇒第一時では、本校のけがの情報を公開した。ゲームは、デッキの数勝負であったが、「走らない」と「歩く」は同意義であるし、もっと整理・精選できそうであった。整理できればよりよい学習になる。

- ・大竹先生：ずっと座りっぱなしではない、一斉一律ではない新しい形の保健の授業を行うことができていた。ゲーム形式にしたことで意欲的に取り組むことができていた。学ぶべきことを自分たちで気づくことができていた。課題は、デッキを強くすることや勝敗にこだわりがちになってしまったことである。区部案の危ないところの写真を撮る場面では、タブレットを持って写真を撮ることで、意欲的に取り組むことができていた。市部案区部案に共通する課題は、地域のことまでなかなか及ばないところである。今後検討する必要がある。

3 正副部長会の報告

研究報告書を作成して本にする予定。

次回1月19日（火）正副部長会があり、これまでに報告書をほぼ完成させる必要がある。

4 研究報告書について

研究報告書は全4ページで作成する。第二時は、2つのパターンがあるのでどちらも載せる予定。

予定

1月18日（月）ほぼ完成状態にする。（プロット書式あり）

1月19日（火）正副部長会で協議

担当決め

研究に携わった人担当 埜村先生、西尾先生

成果と課題担当 村瀬先生、大竹先生、川邊先生

宿題

担当になっている先生は、1月10日（日）までに Google ドライブにあげる。

指導案やワークシートに訂正がある場合は、訂正版を Google ドライブに入れる。

5 常任理事の先生方より

西澤先生

「段階」のところで保健領域も運動領域と合わせることができたら、新しい提案ができる。
柔軟な学習過程ということで、第二時は選択できる仕組みにしたが、誤解がないようにする。

藤原先生

南浦小から成果と課題を村瀬先生に送る予定。4ページに第二時の2つの案と本時案を載せるのはスペース的に厳しいので、HPに資料として載せることも一つの方法である。

次回 1月12日（火）18:30~20:00 zoom にて